



国民の森林・国有林

令和2年度 第1回国有林材供給調整検討委員会を開催 ～引き続き供給調整に取り組むとの検討結果～



挨拶する小島局長

○新型コロナウイルスの前の前から住宅着工申請件数が減少していたところ、緊急事態宣言による住宅展示場の閉鎖、入場制限などにより、新規に住宅を建てようとする客を獲得できていない。5月の

時点で既に需要が落ちていますが、2〜3ヶ月後の8月頃には更に需要が見込めない。そのような中、合板業界では3月から減産に取り組んできたので、4月までの在庫量は一定を保っている状況であり、今後も需要に合わせた生産を進めていきたい。丸太の供給が増えて供給過多となれば原木価格が落ち、林業関係者が困るため、国有林材の供給調整は必要であると考えている。

○紙・パルプ業界は、現在、コロナ禍により四重苦の状況にある。すなわち、「オリン
通常、木材の注文は1ヶ月前に行われていたが、今後の先安感から、在庫がなくなっ

6月22日に、本年度第1回目の「国有林材供給調整検討委員会」を開きました。各委員がそれぞれ専門分野からの意見を述べあい、「新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて

発令された政府の緊急事態宣言が5月25日に全面解除され、国内の経済活動は徐々に再開しつつあるものの、多くの委員から、コロナ禍の影響はこれから大きくなるとの見解が示され、この動きが7月以降の木材需要の回復にどの程度つながるか依然として不透明な状況にある。このため、今後の国内の住宅着工戸数や木材の需給動向等を見極めながら、供給調整を継続していく必要がある」との検討結果となりました。各委員からの主な意見は次のとおりです。



遠藤日雄委員長を座長に検討会の様子

「学校の休校」「テレワーク」「イベント中止」という4つのマインスマイク要因により販売に影響が出ている。新聞については全国的に20%のダウン、印刷用紙は25%ダウン、コピー用紙が1割程のダウンとなっており、在庫もいっぱいになってきている。

たら買うなどの当用買いにシフトした業者が多かった気がしている。

2次補正で過剰木材在庫利用緊急対策事業も出されたが、学校の塀などの外構部の木質化等で需要を創出することが重要。そのため、支援の拡充をお願いしたい。

国有林材の供給調整に関しては、九州において国有林材のシェアが低いということと、素材生産業者の仕事確保するという点から、必要ないと考えている。

○住宅メーカーも7月以降の状況はさらに悪化すると考えられているが、そのような中でもコロナに関する明るい

話題として、今まで旅行などに時間を費やしていた生活スタイルから、持ち家を作り家族や仲間との時間を大切にしたいこうとする動きや、大都市に出ていた人達がコロナ禍を経験したことによって地方に集まりやすくなり、それらに伴う新たな需要への動きに期待を寄せている。

このままの水準で供給が続けば製材業者が原木購入価格を下げることになり、素材生産業者の疲弊が進み、その結果、生産者がいなくなることで将来的に供給量の不足も予想される。そうなると、今度は原木価格が高騰し、共倒れになるおそれがある。このた

め、国有林材の供給を調整し、原木価格の下落を止めるということをお願いしたい。

○九州全体の市場の5月末までの取扱量については増えていたが、木材市況は暴落に近い状況であった。合板業界が軒並み10〜15%減産したことも影響している。

今後の出材量（取扱量）については現状のまま推移し、価格は9月に向けて底値と予測していたが、今後の丸太不足が予想される。

前回の委員会では供給調整の必要ありとの意見を述べたが、最近では、弊社のお客様の意見として国有林の立木販売の再開を望む声が上がってきている。



検討委員会の後に実施された基調講演の様子

○素材生産業者に対して、県及び素生協がアンケート調査をしたところ、5割が経営が悪化し、6割ほどが赤字に転落したという結果を聞いている。一方で、国有林が蛇口を閉めたこと（立木販売の一時見合わせ）から主に国有林から材を調達していた業者が民有林に流れ地域の生産体制のバランスが崩れてきている状況が見られる。したがって、素材生

産業者に対して地域の状況を考慮して、より安定的な森林整備事業を発注していただき、今後の事業が継続できるように最大限サポートして欲しい。

○鹿児島県の森林組合系統共販所の直近の年間取扱数量は、近年で最も多い数量となることが確実であるが、6月に入り急激に入荷量が落ち込んでいる。このままでは夏過ぎに原木が出てこなくなるのではと懸念している。

県下の森林組合では、原木価格が下がる中で、間伐に振り替えたり、他の保育事業に転換したりと試行錯誤している状況である。

5月末のスギの平均単価はこれまでにない低い価格であり、ヒノキはもう手の打ちようがないといったところまで来ている。新たな木材需要を進めつつ、国有林材についてはバランスのとれた供給調整の継続をお願いしたい。

※本検討委員会は、九州森林管理局HPの注目情報「九州森林管理局国有林材供給調整検討委員会の検討結果等について」からご覧になれます。

（担当）地域木材情報分析官

下刈削減の低コスト試験地設定に協力

【宮崎南部森林管理署】5月

28日に、森林総合研究所九州支所 森林生態系研究グループ 主任研究員 山川博美氏の低コスト試験に賛同し、森林総研1名、当署職員4名で管内国有林のスギ造林地内に森林総合研究所九州支所が行う下刈省略試験地を設定しました。

この試験地設定は、森林総研が下刈回数削減の試験研究のひとつとして、植栽木の樹高を基準とした下刈終了基準策定の研究であります。

現在、当署の造林地は二ホンシカ被害を受けていないことと試験地として適地であることから、当署のスギ造林地を試験地として提供したとこ



試験地設定作業の様子



ろであり、この試験地は当署以外の署にも設置されていません。

当日は天候に恵まれて暑い日でしたが、区域(10m×10m)の四隅に穴を掘り、大型L杭を設置し、トラロープで囲い経常下刈時に間違っ折損しないよう目立つように設置しました。

今回試験地として当署では3箇所を設定しましたが、下刈終了箇所(当署は基本的に下刈は4回)で6月中旬に新たに2箇所を追加し、併せて5箇所を試験地を設定する予定です。

今回の試験地設定で成果が出るよう期待し、当署として今後とも各研究機関等に対し国有林を積極的に利用して頂くよう協力していきたいと思っています。

ゴイシツバメシジミの保護・増殖協定を締結

【熊本森林管理署】当署では、国内希少野生動物植物種等であるゴイシツバメシジミの繁殖地及び生息地の保護を目的として、平成5年に「内大臣ゴイシツバメシジミ希少個体群保護林」を設定し、平成8年度から希少野生動物植物保護管理事業を開始して、本種の生態、生息環境等の関する調査を実施するとともに、毎年度自然保護管理員を配置して巡回を行い生息状況や餌となる

シシランの状況等を観察し、密猟防止の強化等と併せ、本種の生息・繁殖に適した環境の維持改善を図っています。また、平成22年にシシランの育成小屋を建設し、シシランの保護・増殖を行い生育したシシランの天然木への移植作業や、シカの食害から地表植生を守るための保護ネットの設置を実施してきました。



協定締結した梅田町長と川畑署長

このような中、山都町からゴイシツバメシジミの繁殖とシシランの増殖を目的とした育成施設等のためのフィールドの提供とシシラン増殖のための挿し穂の提供、保護・増殖に係る情報共有について要望があったことから、これらの事務手続きや事業

が円滑に実施できるように「ゴイシツバメシジミの保護・増殖に係る連携と協力に関する協定」を締結しました。

協定書の締結式は6月25日に山都町役場会議室で開催され、上田浩山都町生涯学習課長から協定に係る概要説明がなされ、続いて梅田穰山都町長と川畑充郎熊本森林管理署長が協定書にそれぞれ署名を行いました。また、川畑署長からは、「協定締結により、これまで以上に両者が連携・協力してゴイシツバメシジミの保護・増殖事業を進められることが期待され、当署としても積極的に取り組んでいきます」との挨拶がありました。今回の締結式の模様は、地元の新聞で取り上げられ県民にPRすることが出来ました。当署としては引き続き山都町の要望等を聞きながら、これまで以上に連携・協力し取り組む考えです。

モーターカー講習を開催

【屋久島森林管理署】当署では、平成29年8月に熊毛地区消防組合及び屋久島警察署の三者で、山岳遭難事故等が発



石原次長による学科講習の様子

生した際に各機関が連携・協力して円滑かつ効率的な救助活動を行うことを目的に、「山岳遭難事故発生時の救助捜索活動に関する協定」を締結し、当署が対応できない場合でも当署のモーターカーを警察・消防に貸し出して迅速な救助を行えるようにしています。本年度は新型コロナウイルスの影響で登山者も少なく事故はなかったものの、傷病者搬送のため緊急に警察・消防による連行で出勤し迅速な対応が出来ており、関係機関から感謝されています。このような中、本年度も協定に基づき、屋久島警察署の職員3名、熊毛地区消防組合の屋久島北分遣所の職員1人と4月異動により新たに転入



実技講習の様子

した署職員6人、屋久島森林生態系保全センター2名を対象にして、モーターカーの運転に係る講習会を開催しました。

講習会は、6月18日に石原健司副次長を講師として学科講習と試験を行うとともに、22日以降に一口竜也森林技術指導官、山口聖森林整備官補を講師として実際の森林軌道でモーターカーの実技講習を開催し認定検査を行うとともに、後日受講者全員に森林軌道運転認定証の交付を行うこととしていきます。

当署としては、引き続き山岳遭難事故発生時に関係機関と連携・協力して、地域貢献できるように取り組む考えです。



ヤクシマWG会議の様子(九州森林管理局会場)

報告されたほか、矢原委員長からはヤクシカの集団シカの集団遺伝構造の解析結果について情報提供がありました。委員からは「指定管理鳥獣捕獲事業は、PDC Aを回すことができる事業なのでしっかりとやって欲しい」と「西部地域の個体数管理にあ

令和2年度第1回屋久島世界遺産地域科学委員会及びヤクシカ・ワーキンググループ会議を開催

6月25日・26日、今年度第1回の屋久島世界遺産地域科学委員会と同委員会のヤクシカ・ワーキンググループ(WG)会議を開催しました。

今回は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、両会議ともWEB会議方式により、各地在住の委員、屋久島環境文化村センター、九州森林管

理局、九州地方環境事務所、鹿児島県庁等を繋いでの会議となりました。

25日のヤクシカWGでは、事務局を代表して当局井口真輝計画保全部長から挨拶の後、屋久島町、鹿児島県、環境省及び当局から、昨年度の取組結果及び今年度の取組内容が

たり、下層植生の復元には生息密度を5頭/km²以下にする必要がある。標を見直すべき」などの意見が出されました。

26日の科学委員会では、各機関より、各種モニタリング調査の今年度の計画、高層湿原保全対策検討会(当局が事務局)の取組状況等の報告の後、世界遺産地域管理計画の見直し及び地域連絡会議のあり方について説明が行われました。委員からは、「管理計画見直しにあたっては、昨年の5月豪雨災害を踏まえた対策を盛り込むべき」「ユネスコエコパークにも指定されているので、両計画の整合を図るべき」「世界遺産の管理体制は実態に即してわかりやすく再整理すべき」などの意見が出されました。

九州森林管理局では、こうした意見を踏まえながら、引き続き関係機関と連携を図り、屋久島世界遺産の適切な保全管理に取り組んでまいります。

(担当：計画課)



科学委員会の様子(屋久島会場)



「国有林防災ボランティア」 災害に備えて活動内容の確認

【福岡森林管理署】6月11日、福岡森林管理署会議室にて令和2年度の国有林防災ボランティア活動に係る事前打合せを行いました。(一社)熊本林業土木協会会員企業からは(株)梶原組 梶原昭人代表取締役、(株)多田組 多田稔土木部課長、(株)測上建設 測上正裕代表取締役、(株)大洋建設 小川裕之専務、(株)へいせい 竹崎和彦土木部課長にご出席いただき、福岡森林管理署からは、杉野隆二次長、針持秀一森林土木指導官のほか治山グループ及び業務グループの関係職員の計7名が出席しました。はじめに次長の挨拶において「これから梅雨本番を迎えるに当たり、集中豪雨や暴風雨さらには台風等による被害が危惧されることから、皆様のお力をお借りしながら山地災害防止、並びに早期の災害復旧に努めて参りますのでご協力をお願いします」と要請を行うとともに、福岡署では今年度5月に立木販売で重大災害が発生していること、労働災害は連続して発生する傾向にあること、近年の林道事業及び治山事業関連の労働災害事例等を説明し、労働災害の未然防止についても要請を行いました。



打合せ会議の様子

続いて森林土木指導官より国有林防災ボランティア活動要請時の具体的な対応方法及びボランティアによる調査実施箇所の確認を行った上で、協会からの要望等も聞いて意見交換を行い打合せを終了しました。

この打合せが山地災害等の発生時における迅速な被災状況の把握と地域住民の安全確保等に繋がるよう、今後とも福岡森林管理署と(一社)熊本林業土木協会が連携して取り組んでいくこととしています。

「奥雲仙の自然を守る会」が美しい森づくり活動コンクールに入賞

【長崎森林管理署】6月16日、長崎森林管理署において、雲仙市国見町のNPO法人「奥雲仙の自然を守る会」が、一般社団法人全国森林レクリエーション協会主催の「森林レクリエーション地域美しの森づくり活動コンクール」の協会長賞を受賞したとして、同会に対し賞状等の伝達式が行われました。本来であれば東京で授賞式が行われるはずでしたが、新型コロナウイルスの影響で中止となり、当署で伝達式を行うことになったもの



伝達式を終えた中田代表と村田署長

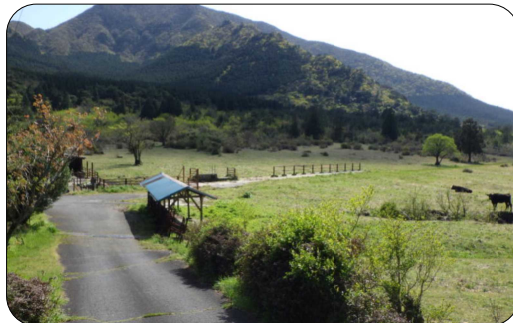
伝達式では職員と関係者が見守る中で、協会会長賞の賞状と三浦雄一郎協会会長直筆のサイン色紙が、村田孝彦署長から同会の代表の中田妙子氏に伝達されました。

この「奥雲仙の自然を守る会」は2005年に発足し、田代原草原やミヤマキリシマの群落を森林化から守るため保全活動を行ってきました。

また、「遊々の森」や「田代原風致探勝林の整備・管理及び活用に関する協定」を締結し、地元の団体や学校、企業、市民を巻き込んだ森林整備や森林教室なども実施されています。これらの活動を通じて、森林環境教育の推進や当該地域の景観の保全・向上に貢献していることを踏まえ、「第32回森林レクリエーション地域美しの森づくり活動コンクール」に推薦したところ、全国森林レクリエーション協会会長賞に選ばれました。

同会は他にも、「あしたのまち・くらしづくり活動賞」で振興奨励賞を受賞し、「日本自然保護大賞」で入選(2

年連続)された結果トリプル受賞となり、地元紙の外複数新聞にも掲載され、継続して行われてきた保全活動が評価された結果となりました。



保全活動を行っている田代原草原



地域の人々を交えた保全活動の様子

コンテナ苗生産 技術研修会に参加

【大隅森林管理署】令和2年6月18日に大隅流域森林・林業活性化センター主催のコンテナ苗生産技術研修会（未来を担う苗木生産者育成事業及び林業成長産業化プロジェクト）が開催され当署から9名が参加しました。

当日、午前中は鹿屋市内の大隅森林組合コンテナ苗生産ハウス内において、鹿児島県森林総合技術センターの永吉研究専門員によるコンテナ苗



生産の基礎知識の説明に始まり、箱挿し苗の掘取り及びMスターコンテナへの挿し付けを参加者全員が実践しました。

当署職員もコンテナ苗生産者と一緒にMスターコンテナのシートに培地を乗せ根に巻きつけを実践し、作業の難しさを体感しました。

また、午後からは南大隅町の駿河木材（有）に移動し、ハウス内で箱挿し苗の掘取り及びマルチキャビティコンテナへ培地を入れる作業と苗木（国有林からの採穂苗含む）の挿し付けを生産者の方々と一緒に実践しました。

当署の若手職員4名も参加し、コンテナ苗の種類や生産技術の違い、作業の違いなど職場内での研修では受講出来ない貴重な体験をしました。

最後に、主催者から、「今後についても引き続き同様の研修会を開催し、コンテナ苗生産技術の向上と生産者育成に民国連携して取組み、コンテナ苗の普及を推進していきます」との挨拶があり研修会を終了しました。当署においても国の機関として、コンテナ苗の普及を支援していくとともに、次回の研修会へも積極的に参加していきます。



研修の様子

くまもと林業 大学校で講義

【熊本森林管理署】熊本県では次世代をリードする林業担い手の育成と確保を目的として、昨年4月にくまもと林業大学校を開校しましたが、（公財）熊本県林業従事者育成基金からの依頼を受けて、川畑充郎署長が林業政策「国有林野の役割と具体的な取組」と題して、6月8日に県北校

（熊本県林業研究・研修センター）の学生13名と、聴講生として林業従事者初級コースの8名に対して講義を行いました。

マルチキャビティへの移植

講義では、まず林野庁全体の組織と役割を説明した後、九州森林管理局のパンフレットや令和2年度の重点取組事項等により、国有林の役割と具体的な取組について説明し、学生たちも熱心に受講しました。



講義する川畑署長

いて、高性能林業機械の購入・維持費を含めた生産コストについて、樹木採取権制度の内容について質問が出され、儲かる林業を目指してこれから自分たちが熊本県の林業を担っていくとの意気込みが強く感じられ、大変頼もしい限りでした。

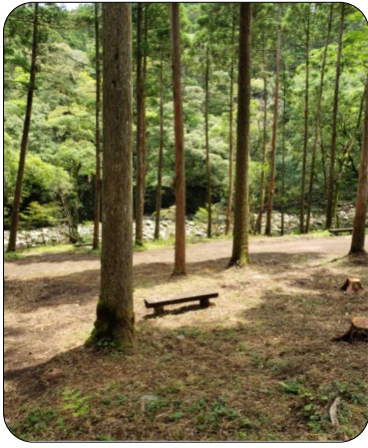
当署としては、引き続きくまもと林業大学校をはじめその他の民有林関係機関からの要請等に対して、適切に対応していく考えです。

「宮崎自然休養林」の整備を実施

多目的広場が綺麗になりました

【宮崎森林管理署】宮崎自然休養林内は、宮崎市南部に位置し市街中心地から約16kmの距離にあります。古くから登山やウォーキングなどの森林レクリエーションの場として、宮崎市民をはじめ県内外の人に広く利用されています。その中の多目的広場は、平成29年10月の台風22号等による風倒被害もあり、雑木・雑草が繁茂した状況が続いていました。このため、昨年度から広場内の下草刈りや遊歩道の修理等の施設整備、周辺も含めた風倒危険木の除去等を委託事業により実施しました。

従来より、双石(ぼろいし)山登山や加江田溪谷ハイキングの休憩地、溪流遊びの基地として親しまれてきましたが、昨年度の整備が口コミで広がったこと、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあつたこと等から、家族連れや子供会の利用が増加しており、利用者からは、「とても綺麗になって利用し易くなった」「溪谷の見晴らしも良くなった」等の意見が寄せられ好評を得ています。



多目的広場の様子

今後は、レク森の管理の基盤に立ち返り、宮崎自然休養林保護管理協議会による定期的な整備(年に数回の草刈り)をお願いするべく、協議会事務局の宮崎市森林水産課に臨時総会の開催を依頼する考えです。さらには、本休養林がこれまで以上に、県内外の利用者から親しまれる場所となるよう、施設整備・管理及び活用に関する活動の円滑な実施について、オブザーバーとしての役割をしっかりと

果たしていくこととしています。



溪谷と遊歩道の様子

松くい虫防除の薬剤散布を実施

【福岡森林管理署】松くい虫被害から海岸マツ林を守るため、本年度も松くい虫防除の薬剤散布を実施しました。

今年度は新型コロナウイルス感染症による非常事態宣言を受けて、福岡県主催の「森林病害虫等防除連絡協議会」及び各市町主催の地元住民説明会が開催されず、書面による通知・住民説明のみとなり、直接の対話ができない中、例年以上に入念な散布準備に務めました。



空中散布の様子：橋の松原

散布日程は1回目散布を5月9日～19日、2回目散布を6月1日～8日とし、各市町による民有林の散布とともに全散布工程を終了しました。

福岡署では、海岸林の再生の加速化を図るため、継続して松くい虫防除対策に取り組むこととし、今後は散布工程の簡略化も検討しつつ各種調整に努めてまいります。

シカの侵入に強い危機感

【宮崎南部森林管理署】宮崎県南地域では今までニホンジカ(以下シカという。)は生息していませんでしたが、



自動カメラによる撮影

が、近年目撃情報が寄せられ、昨年度は串間市等でシカが捕獲されたことから、令和2年6月17日に日南市で南那珂農林振興局主催の令和2年度南那珂地区シカ進入対策連絡会議が初めて開催されました。

会議には、宮崎県森林環境部自然環境課、南那珂農林振興局、日南市、串間市、南那珂森林組合、日南市有害鳥獣対策協議会、串間市有害鳥獣対策協議会、日南地区猟友会、串間市猟友会、鳥獣保護管理員19名が参集しシカ進入対策について協議しました。

会議では、県内のシカによる被害状況、被害に対する対策状況、県の取組、県南地域へのシカ進入防止対策協議会の取組、その他関係機関の取組状況等が報告され、当署か



会議の様子

らは令和元年度の自動カメラによるシカ撮影や、樹木被害状況等を報告し、今後の課題及び取組として、シカの目撃情報の収集及び情報共有の強化、県の「ニホンシカ目撃等アンケート」の提供要請等を行いながら、県南地域のシカ目撃箇所、捕獲箇所の情報マップを作成していく事を確認しました。

また、県南地域の農林作物、飼料林業を守るため、昨年度南市・串間市と締結したシカ有害鳥獣対策協議会に貸し出しているくくり罠を積極的に活用して頂くことの要請を行いました。

さらに、今まで有害鳥獣駆除対象にシカが一部地域しか

入っていないなかったことから、シカが罠にかかっても放す事案が発生した状況を踏まえ、被害が現に生じている場合ではなく、そのおそれがある場合についても許可の基準となっているので、今後は有害鳥獣駆除対象にシカを追加していく事も確認しました。

なお、当日の夕方にはMR TテレビのニュースNextで、「県南地域にシカ出現」と題して放送があり、シカに対する関心が高まっていることを受けて、宮崎県・日南市・串間市・有害鳥獣対策協議会・関係機関等と連携してシカ進入対策に努めていきます。

眉山見学会を開催

【長崎森林管理署】6月21日、島原市主催による自主防災会議が開催され、その会議の場を利用して「眉山見学会」を行いました。

この見学会は、熊本地震のあと、特に急峻な頂上付近の剥離状況が目立つ眉山に対して、島原市から治山対策の要望書が提出された際、直に眉山を見て頂くことで市民の方々の安全・安心に寄与できればとの思いから、島原市長に提案し実現したものです。



説明を行う洲上治山技術官

本来であれば各町内会の代表が一同に会して行われる会議ですが、コロナ禍の影響で町内会毎の対応となったため、数回に分けて実施することとなりました。

当日は、村田孝彦署長が挨拶を行った後、参加者約30名を前に眉山治山事業所の洲上翔吾治山技術官から、眉山治山の歴史と、日頃は森林に覆われ市街地から見ることの出来ない場所に多数の治山施設が整備されている状況を、ドローンで撮影した動画を用いて分かり易く説明しました。

その後、普段立ち入ることの出来ない眉山の現場へ移動し、現在行われている治山工事や源頭部における緑化工施工箇所の復旧状況を見学しま

した。

住民からは「眉山は自宅から毎日見ているため変化に気づかなかつたが、本日の説明を聞き緑化が進んでいることを改めて確認することができた」との声もあり、国有林治山事業の果たしている役割について理解していただきました。

午後からは別の町内会の住民に対して同様の説明を行い、さらに後日別の町内会に対して説明を行うこととしており、総数約100名程度の市民に対して、眉山治山事業への理解を深めて頂くことができました。今後も島原市民の安全・安心のために治山事業が果たしている役割についてのPRに努めていきます。



治山施設及び眉山の状況を確認する参加者

また、入り込み者数の把握について意見が出され、本年度中に推計可能な方法により概数を把握していくことになりました。

なお、管内の他のくまもと自然休養林菊池溪谷を美しく

金峰山地区保護管理協議会総会が開催

【熊本森林管理署】6月29日、

熊本市役所会議室においてくまもと自然休養林金峰山地区保護管理協議会の令和2年度の総会が、熊本市、玉東町、玉名市、(一財)日本森林林業振興会、熊本県の協議会員及び当署から川畑充郎署長、下大迫伸一総括森林整備官、永野達也熊本森林官が参加して関係者15名で開催されました。

する保護管理協議会と木原山風景林を管理する雁回山周辺地域整備連絡協議会の令和2年度の総会は、新型コロナウイルス感染症拡大のために書面審議となりましたが、原案のとおり承認されています。

当署としては、引き続きレク協議会をはじめ関係機関と連携・協力して、レク森がますます活性化して地域発展の一役になるよう取り組んでいく考えです。



中尾 朋子さん

私の自宅からは霊峰天山が見えます。青々とした新緑に春の訪れを感じ、夏には、目に鮮やかな緑に暑さを忘れ、雨の時は、山が鮮明に見えるかどうかで今後の雨の激しさを知らせてくれるバロメーターです。黄色や赤の木々の色づくに秋を感じ、冬は頭に白く雪をのせた姿に凜とした風情を覚えます。天山は私たちに



総会の様子

安全大会を開催

【大分森林管理署】7月1日、大分森林管理署会議室において、本署、各森林事務所所属職員出席のもと令和2年度安全大会を開催しました。

はじめに、猪島明久大分森林管理署長から、安全週間にあたり、『重大災害の絶滅』『ゼロ災の達成』『心とからだの健康』の保持増進の3点を本年度の健康安全管理

重点目標として取り組んでいくところとす。林野庁のスローガン「経験と知識に潜む油断の芽」の下、健康でゼロ災達成に向けて職員一丸となつてみんなで取り組もうと挨拶。挨拶のあと、小島九州森林管理局長からのメッセージを猪島署長が代読して出席者に周知を行いました。

また、多数応募（72点）のあった安全標語の中から、多くの共感を得た入選作6点の発表を行いました。

つづいて、大分中央警察署から河野交通安全教育主任を招き、大分県内の交通事故発生状況、交通事故の形態の分析から、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が解除され、交通事故が増加傾向にあると説明がありました。交通事故を未然に防ぐためにお願したいことは、①前をよく見て運転（3秒の車間距離をとる）、②十分な安全確認（広い視野で見て確認）を確実に行っていただきたいと

季節の訪れを感じさせてくれる、なくてはならないものです。

しかし、昨年の8月26日の佐賀豪雨では、この山に登る登山道の土砂崩れ、倒木などがありちろちろで見られ、1

分なため、木々の手入れが行き届かず、森が森として機能していないからだという話を聞きました。

私たちの生活は山や森林と共にあると言っても過言ではありません。豊かな森があっ

豊かな森林を次世代へ

年たった今でも復旧できていない場所がたくさんあります。大きな原因は、森林業に携わる人が減り、森林保全が不十

てこそ、水源の涵養、生活環境の保全が成り立つと思っております。その基盤である森林が危機的状況にあるのは、本

当に残念でなりません。祖先から受け継いだ森を次世代にきちんとバトンタッチする方法がないだろうかと思つたときに、佐賀県では平成20年4月1日から、県民に対して広く等しく「佐賀県森林環境税」を導入し、県、市町が力を合わせ荒廃森林の再生などに取り組んでいることを知りました。山村地域の過疎化により、適切な管理が行えずに荒廃が広がっている森林が佐賀にもたくさんあります。県が主導して、この森林再生事業を行うことは大変意義のあることだと思えます。

私が今回モニターに応募した理由のひとつが、佐賀では「森林環境税」の取り組みがあるように、全国的には、この森林の荒廃に対してどのような取り組みが行われているのかに興味があったからです。小さいときから、山が身近にある生活をしてきた私にとって、森林の保全は無視できない問題です。自分一人の力ではどうすることもできないからこそ、みんなで知恵を出して豊かな郷土の森林を守っていきたく切に願います。そして、今より少しでもいい状態で次世代にバトンタッチしていきたくものです。

（多久市在住）

熱弁されました。

DVD鑑賞では、ドライブレコーダーの映像を編集した映像を見て、交通事故の瞬間の生々しい映像に、出席者からは「アッ」という声が聞こえ車を運転する時の心構えとして冷静な判断などを感じました。

締め括りとして、木下昂大技官が「安全大会宣言」を読み上げ、本村颯己技官が「ゼロ災コール」を行って、本年度の大分森林管理署ゼロ災を目指して引き続き取り組むことと

しました。



交通法令講習の様子

☆今年度の永年勤続30年及び20年受賞者は次のとおりです。

農林水産大臣賞

勤続30年

- 井口真輝 (計画保全部)
- 武藤和子 (福岡署)
- 石田義幸 (佐賀署)
- 藏原 剛 (熊本署)
- 藤本順也 (熊本署)
- 小谷 豊 (熊本南部署)
- 加藤省三 (西都児湯署)
- 丸橋勝寿 (宮崎署)
- 池水寛治 (都城支署)
- 深田隼人 (宮崎南部署)

農林水産大臣賞

勤続20年

- 白内慎哉 (北薩署)
- 水本利香 (鹿児島署)
- 峰 俊之 (総務課)
- 草野真一 (経理課)
- 濱田 巧 (福岡署)
- 宮島貴文 (佐賀署)
- 出田正哲 (宮崎南部署)
- 柏木和美 (鹿児島署)

(担当) 総務課



自宅の隣にラカンマキを一本仕立て、2m足らずで、3段に剪定したラカンマキがあり、花はつぼみの時から観察できます。ラカンマキは雌雄異株の樹木で、残念ながら雄木で花は咲きませんが果実はありません。



152 ラカンマキ (マキ科)

ラカンマキの語源について、羅漢とは種子の形が坊主頭であるのを、まだ仏になりきらぬ羅漢に例えたもの。羅漢とは仏教において最高の悟りを得た人、で尊敬や施しを受けるに相応しい聖者のことを言うのだそうです。

中国に産しますが九州南部や沖縄に自生しています。幹は直立し高さ5m位、葉が混んでつきまします。小枝は多く、葉が繁る小枝はまっすぐで、ややまばら、葉は広線形または線状披針形で、長さ5~8m、葉質は厚く、深緑色で先端は丸みになっていますが鋭くとがります。イヌマキに比べると葉が短く密生し上向きになり、決して下向きにならないこととで区別できます。雄花は2~3個束になって咲き、黄色で斜めに垂れます。雌花はおおきな果托があり、果托は赤く熟し、引っ付くようにして広楕円形で青緑色の種子がついています。

森林インストラクター

安条 行雄



夏になると、スーパーマーケットやコンビニの店頭で「土用の丑の日」のキャッチコピーと共にウナギが並びます。なぜウナギを勧められるのでしょうか▼ルーツを辿ってみると、7世紀から8世紀に編纂された「万葉集」に、ウナギを詠んだ歌が掲載されています▼「石麻呂に吾れもの申す夏瘦せによしといふものぞむなぎとり召せ」【大伴家持】▼この意味は、石麻呂という人に、夏瘦せにはむなぎ(ウナギ)を食べると良いと勧めている歌です▼昔から体調を崩しやすい時期にはウナギを食べ、栄養をたっぷり摂ろうという考えがあったようですね▼ウナギにはビタミンAやビタミンB群など、疲労回復や食欲増進に効果的な成分が多く含まれています。夏バテ防止にはピッタリの食材といえるでしょう▼そもそも土用の丑の日とは何の日でしょうか。ウナギを食べる習慣が一般にも広まったのは1700年代後半の江戸時代でした▼一説によれば「夏に売り上げが落ちる」と鱧屋から相談を受けた蘭学者の平賀源内が、店先に「本日丑の日」「土用の丑の日」うなぎの日」食すれば夏負けすることなしという看板を立てたら大繁盛したことで、ほかのウナギ屋もマネするようになったとか▼令和2年は夏に「土用の丑の日」が2回あります。今年の場合は7月21日を「一の丑」8月2日を「二の丑」と呼びます▼7月21日が待ち遠しいですね。

【IZU】